

平成28年度 科学研究費助成事業（特別推進研究）
追跡評価結果

課題番号	18002007	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	高度言語理解のための意味・知識処理の基盤技術に関する研究		
研究代表者名	辻井 潤一	研究期間終了時の所属・職	東京大学・情報理工学系研究科・教授
		現在の所属・職	国立研究開発法人産業技術総合研究所・人工知能研究センター・センター長

【評価意見】

本研究は、自然言語処理における現在のバイオインフォマティクスの先駆的な研究と位置付けられる。具体的には、生命科学論文に焦点を当て、構造処理、深い意味理解に基づくテキストマイニングを可能にした。また、研究代表者らが開発した自然言語解析ツール Enju は、国立情報学研究所が推進するプロジェクト(東ロボ)や2014年開始のCRESTプロジェクト(黒橋教授：京都大学)など国内外で活用され、その有用性が認知されている。

さらに、科学論文からのテキストマイニング研究の問題意識は、2014年開始の米国DARPAのBig Mechanism や、2015年開始のCRESTプロジェクト(松本教授：奈良先端科学技術大学院大学)に引き継がれ、計算言語学会におけるSIG BioMedNLPの新設なども本研究の波及効果の証と言える。また、学術的にも引用数の多い論文が多数出版されている。加えて、研究に関与した若手研究者が、現在、第一線で活躍していることから、若手人材育成の観点でも評価に値する。近年、科学論文からのビッグデータ分析が国際的にも重要視されるようになってきたが、前述したように、まさしく、本研究はその先駆的な存在として高く評価できる。

また、研究代表者は、本研究期間終了後、2015年から産業技術総合研究所に新設された人工知能研究センターのセンター長としてバイオインフォマティクスの研究の一大拠点を築いている。これは、研究代表者の研究成果及び当該分野の重要性が高く評価された証と言える。